

別紙1-1

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 SUKHEE Erdenetuya

論 文 題 目

Sickness absence among employees of healthcare organizations in the public sector in Mongolia: A cross-sectional study

(モンゴルの公立医療機関における従業員の病気欠勤について：横断的研究)

論文審査担当者 名古屋大学教授

主 査 委員 若井 建志  
名古屋大学教授

委員 八谷 寛  
名古屋大学教授

委員 加藤 昌志  
名古屋大学教授

指導教授 山本 英子

## 論文審査の結果の要旨

今回、モンゴルの公立医療機関における調査により、2016年～2018年の間に282機関で13,653名の従業員が計21,043回の病気欠勤を取得しており、欠勤率は0.9%であることが明らかとなった。欠勤の平均日数は、欠勤1回あたり9.63日、欠勤者あたり14.85日であった。15日以上長期欠勤の取得と関連した因子は、40歳以上、10-19年間の勤務経験、勤務先が第二次または第三次医療機関、夜勤があることであった。欠勤1回あたりの経費(生産性の損失+給与の損失+補償)を算出すると平均295.5ドルであり、全公立医療機関における経費は1年あたり1,796,993ドルと推定された。医療機関における従業員の健康を促進し欠勤による経費を減らすためには、政府は病気欠勤に関する政策を見直し、雇用主、管理者および従業員のために病気欠勤に関するガイドラインを作成する必要があることが示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 医療従事者の欠勤率は、国や職業によって異なる。英国全体では3.5%、ブラジルの教育病院では2%、イランの教育病院では0.6%-1.1%であった。英国の研究では、救急隊員(5.5%)が最も欠勤率が高く、次いで看護師(4.5%)であり、医師(1.1%-1.3%)が最も低かった。本研究で欠勤率が低いのは、病気による欠勤には診断書の提出が必要であること、欠勤手当が安いこと、看護師不足により休みにくい環境であることなどが考えられた。
2. 外傷の原因は職場の事故ではなく交通事故であると思われる。モンゴルでは交通事故が非常に多く、保健省による報告では全国民における疾病数の第5位が外傷であり、交通事故による死亡率は2019年には10万人当たり21と高く(日本は10万人あたり3.6)、2016年以降上昇傾向にある。
3. モンゴルでは労働衛生の担当者は各施設に1人しかいない。従業員の健康障害や労働災害を防止し、健康の保持増進や健康教育を目的とする安全・衛生委員会を設置すること、委員会の構成員は事業者側の管理者、産業医だけでなく複数の労働者とすることを義務付ける政策が必要であると考えられる。

本研究は、モンゴルの医療従事者の病気欠勤について、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士(医学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	SUKHEE Erdenetuya
試験担当者	主査 若井 建志		副査 <sub>1</sub> 八谷 寛	
	副査 <sub>2</sub> 加藤 昌志		指導教授 山本 英子	
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 本研究における欠勤率と過去の研究結果と比較について</li><li>2. 職場における事故と欠勤の原因の外傷との関連について。</li><li>3. 欠勤率を減らすために必要な医療システムや政策について</li></ol> <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、医療行政学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				